

平成24年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年9月24日（月） 13時30分～15時15分
- 場 所： 京都市立病院 4階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,
山本 壯太, 小西 哲郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 報告等

(1) 平成24年度監査計画について

(主な質疑内容)

特になし

(2) 平成23年度決算及び業務実績評価結果について

(主な質疑内容)

- ・ 人事評価については、まず、適切な自己評価ができる環境にあること、次に、上司、同僚、部下などの評価と合わせて客観的な評価をするとともに、成果だけでなく取り組み方を評価する仕組みが大切であると考えている。継続的な取組ができるようプロセス管理をしていくことと、持続的にアウトカムが得られるような仕組み作りが重要である。これらを支えるのが人材である。
- ・ 自治体病院においては、政策医療性が高いほど、赤字が出るものである。この部分については市から、運営費交付金という形で補助を受けている。一定の質に裏付けされた医療を提供する一方で、赤字になった部分は、説明責任をしっかりと果たしていく必要がある。
- ・ 多職種によるチーム医療により、患者に利益をもたらし、医療の質が担保される。チーム医療を構成するすべての職種が一定以上のレベルが必要であり、1つでも欠けてはならないものである。
- ・ 医療機能にウエイト設定をしていないことに関しては、病院なのでできて当たり前であり、これらができて財務内容に反映されるものである。人材育成と運営の仕組み作りが、法人化をして最初にすべきことであるという観点から、医療そのものよりも、それ以外の項目にウエイト付けをしている。

(3) 経営状況月次報告（7，8月分）について

(主な質疑内容)

○京北病院関連

- ・ 例年、夏に実績が落ち込むが、今年度はそれがなく、診療報酬単価も高い結果となった。職員数や、気候によるものではなく、京北病院が地域に理解されるようになってきた結果であると考えている。
- ・ 看護部からも、人手不足を補うため、看護師の派遣を実施している。また、認定看護師も派遣している。京北病院における看護の水準も高く保たれている。
- ・ 市立病院の力も使いつつ、京北病院のレベルを上げる取組をしており、これらの効果

が出ているのではないかと思う。

(4) 市立病院，京北病院間でのＣＴ画像遠隔読影連携システムの導入について

(主な質疑内容)

- ・ 将来的に，システム更新の際，テレビ会議ができるシステムも導入し，病院間でカンファレンスを実施したい。市立病院の機能を京北病院でも使えるようになると，レベルがかなり上がる。
- ・ 国のモデル事業においても，都市型病院との機能連携は重視されており，地域包括ケアシステムの中での在宅療養あんしん病院としての取組を進めていきたい。

(5) 「ＱＩ推進事業２０１１」結果報告について

(主な質疑内容)

- ・ この取組により，市立病院の強み，弱みが分かってきたところである。これまで，臨床指標に係る取組は，院内では実施していたが，外へ開かれた形ではなかったので，このような取組は良い方向であると考えている。

(6) 第７回地域医療フォーラムの開催について

(主な質疑内容)

- ・ 医療フォーラムは，年２回開催しており，参加者の多くは，市立病院と連携しているかかりつけ医や介護等の関連施設の方である。地域との連携の取組をさらに進めていきたい。

3 その他

○ 京北病院まつりについて

(主な質疑内容)

- ・ ８月２５日に開催し，落語と音楽演奏の催しを実施した。当日は昨年度を上回る１００名以上の方にお越しいただき，盛況であった。

4 閉会